今月の顔

家族で楽しむ企画そろう

第27回西行まつり

渋川観光協会理事 桶陽子さん（76）（渋川）

渋川ゆかりの平安時代末期の歌人西行（1118～90年）を顕彰する恒例のイベントを3日午前11時～午後2時半、カブーロ浜茶屋周辺で開く。

西行は68年、四国へ向かう途中、浦田ケ浜（現在の渋川海岸）で「おりたちてうらたに拾ふ海人の子はつみよりつみを習ふなりけり」と詠んだ。

午前11時15分から、短歌「西行賞」の表彰式、同40分から橋本美香・川崎医科大准教授が「西行を知る」と題して講演するほか、腰掛け岩やブロンズ像などゆかりの場所を訪ねるクイズラリー、ダイヤモンド瀬戸内マリンホテルの宿泊券などが当たるビンゴゲーム、藤の実飛ばし大会など家族で楽しめる企画がそろう。

正午からは観光協会婦人部が、うどん80食を振る舞う。「まだまだ寒いが、渋川海岸は景色がきれいで空気もいい。ぜひ温まっていって」とほほ笑む。

問い合わせは市観光協会（㉑3486）。（松山定道）

思い出に残る熱戦を展開

第30回荘内メモリアルカップ少年サッカー大会

荘内サッカークラブ父母の会会長 野田仁美さん（39）（迫間）

「6年生にとっては卒団記念となる集大成の大会。思い出に残る試合を」

9、10の両日、玉野スポーツセンター（田井）で、県内外24チームの小学生が熱戦を繰り広げる。市内からはホストチームの荘内サッカークラブなど6チームが参加する。初日は4チームずつ6グループに分かれて予選リーグを戦い、2日目は予選の順位ごとに三つのトーナメントで順位を争う。

父母の会が、各チームの写真入り大会プログラムの作成や会場設営など運営全般を担当する。

荘内サッカークラブには荘内小の1～6年生約40人が所属。毎週土、日曜に荘内小グラウンドで活動している。「仲良く和気あいあいとしたチーム」という。6年生は長男でキャプテンの悠喜君（⑪2705）。（内田貴大）

黒米使った甘酒振る舞う

玉野雑穀 大試食会

市雑穀生産組合長 井上史郎さん（75）（山田）

「3」と「9」の語呂合わせで「雑穀の日」とされる9日の午前10時から。道の駅「みやま公園」の直売施設みどりの館みやま（田井）で雑穀の黒米を使った甘酒を無料で振る舞う。「黒米は美容と健康に良いとされる。ぜひ味わってほしい」と呼び掛ける。

市内で生産された雑穀の消費拡大が目的で、甘酒は200人分を用意し、紙コップで提供する。黒米が約20㌘入った無料サンプルも200個配布するほか、雑穀クッキー、シフォンケーキなどの販売もある。

市雑穀生産組合は2015年に発足。健康志向の高まりから市内での栽培面積は拡大し、18年は約8㌶と15年に比べて1・8倍になった。ただ、生産農家の高齢化が課題で、「試食会を通じて一人でも組合に参加してくれる意欲的な仲間が増えたらうれしい」と期待する。問い合わせはみどりの館みやま（㉜0115）。（民直弘）

3部構成のステージ見て

玉野少年少女合唱団 第34回定期演奏会

リーダー 近藤愛里紗さん（17）（玉野高2年）

17日午後2～4時、すこやかセンター（奥玉）で開かれる。小学1年生から高校3年生までの団員26人が3部構成のステージで、合唱をはじめ、踊りや芝居などを披露する。「ソプラノ、メゾソプラノ、アルトの3パートのコーラスに注目して」

1部は卒団者を交えた迫力ある合唱、2部はコミカルな歌詞とメロディーが特徴の合唱組曲「チコタン」。最後は指導者の川上大和さん考案の「音楽家の謎」と題したオリジナルストーリーに合わせて、せりふや歌で謎解き物語を展開する。

小学4年生から続ける近藤さんはメゾソプラノを担当。週1回の練習や訪問演奏などで定期演奏会に向けて準備してきた。「3部の台本はせりふが多くて覚えるのが大変だった。大人向けのストーリーに仕上がっているので物語の世界観を楽しんでほしい」と話す。

入場無料。問い合わせは川上さん（090－5694－0456）。（内田貴大）

（C）山陽新聞社　無断複製・転載を禁じます。